

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年11月)	今回(平成28年2月)	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	<u>緩やかに減少</u>	
住宅建設	大幅に増加	<u>減少</u>	

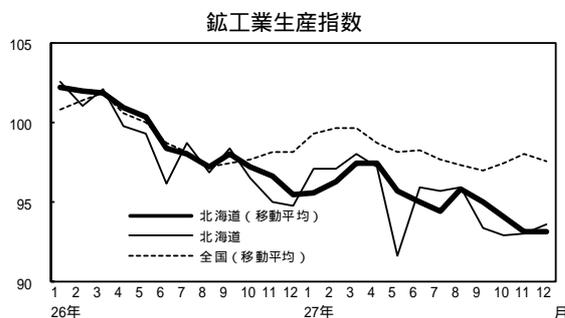
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。

10~12月期には、生乳生産は総量では959,385tと前年比2.2%増となり、乳製品向け等が増加した。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比32.8%減となった。なお、道が公表した平成27年の北海道漁業生産状況(速報)によると、漁獲金額は約3,112億円で、前年比3.1%増となっている。

(2) 鉱工業生産は、緩やかに減少している。

10~12月期には、食料品は、主に清涼飲料水等が好調だったことから増加した。パルプ・紙は、雑種紙の工場で老朽化によるトラブルがあったこともあり、減少した。電気機械は、水晶振動子がメーカーの生産体制見直しで減産される中、減少した。鉄鋼は、建設用鋼材等が不調だったこと等から、減少した。輸送機械は、駆動伝動装置が主に海外向けで好調だったこともあり、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
食料品	24.2	0.8	1.6	0.4	1.2	2.6
パルプ・紙	11.9	3.4	0.2	0.6	1.7	2.0
電気機械	11.7	0.8	11.5	7.1	0.3	2.4
鉄鋼	7.5	3.4	6.6	3.6	3.7	4.7
輸送機械	7.0	1.5	2.2	1.8	12.2	6.8
鉱工業	100.0	0.0	1.9	0.4	0.1	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

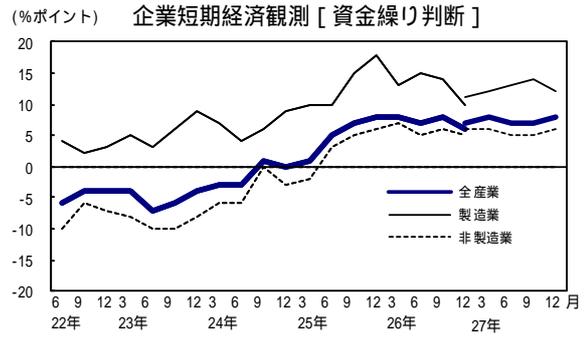
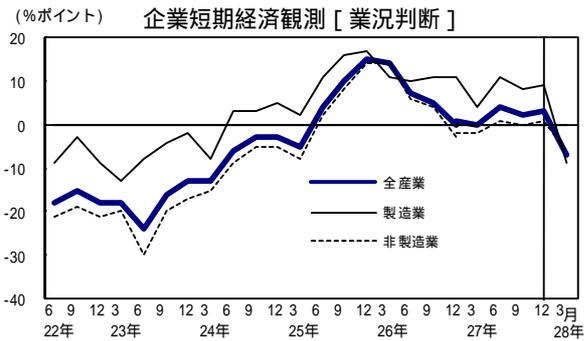
2. 10~12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

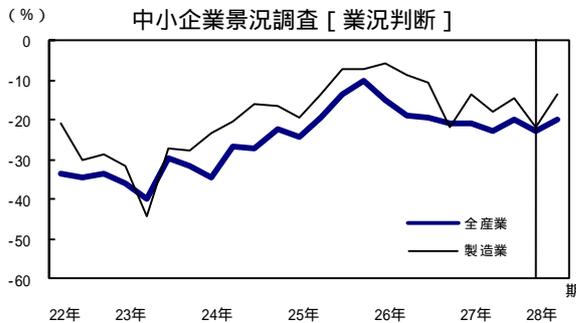
(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

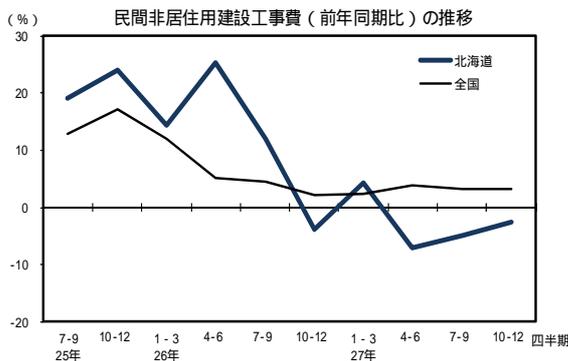


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「燃料価格の下落というプラス要因はあるが、設備投資意欲の回復までは実感できていない(その他サービス業[建設機械リース])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

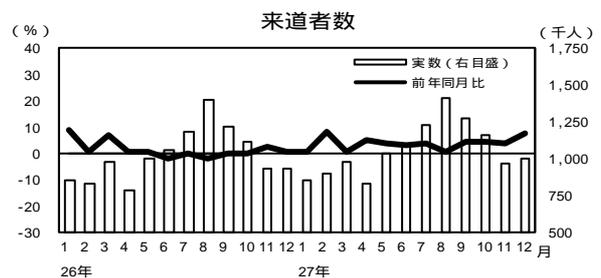
	26年度実績	27年度概
全産業	9.1	12.6(2.3)
製造業	17.6	14.3(3.7)
非製造業	25.3	11.9(1.7)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は、増加している。

来道者数は、学会やコンクール等の大会もあり、増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.4%減、11月は同0.6%減、12月は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額

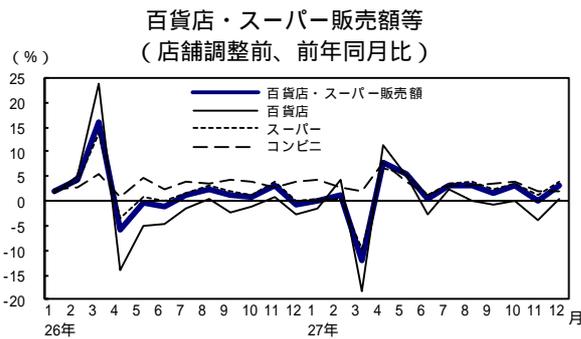
百貨店は、10月は、衣料品、身の回り品、飲食料品が不調だったものの、その他は好調で、前年を上回った。11月は、その他は好調だったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品が不振だったことで、前年を下回った。12月は、衣料品が不調だったものの、身の回り品、飲食料品、その他が好調だったことで、前年を上回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、51.6となり前月より0.6ポイント上昇した。

「これまでと比べて外国人観光客の伸びが鈍化しているため、来客数に大きな変化がみられない(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

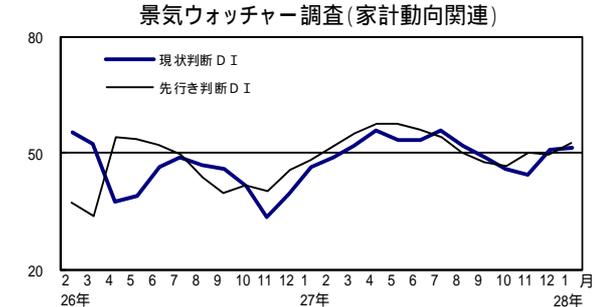
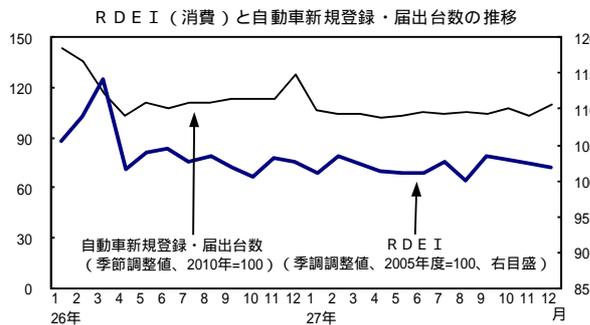


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.4	0.4	0.6	0.5
百貨店・スーパー(*2)	2.2	3.0	0.1	3.3
百貨店(*2)	1.0	0.1	3.9	0.5
スーパー(*2)	3.0	3.7	1.1	3.9
コンビニ(*2)	2.6	3.8	2.1	2.0
乗用車(*3)	8.6	6.0	7.0	12.9
(季節調整値)(*3)	2.4	3.1	4.0	6.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

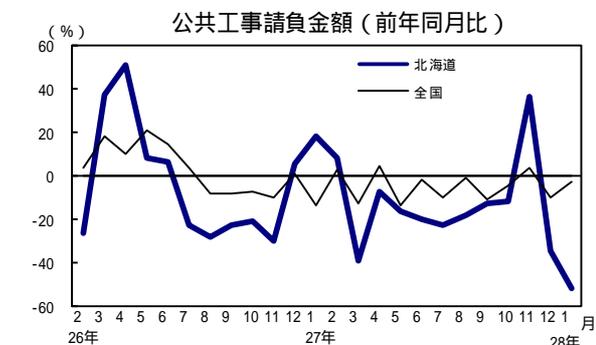
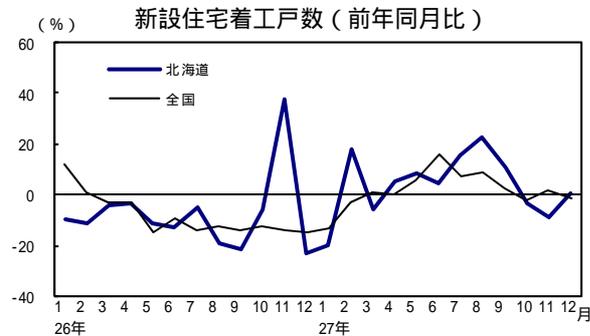
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

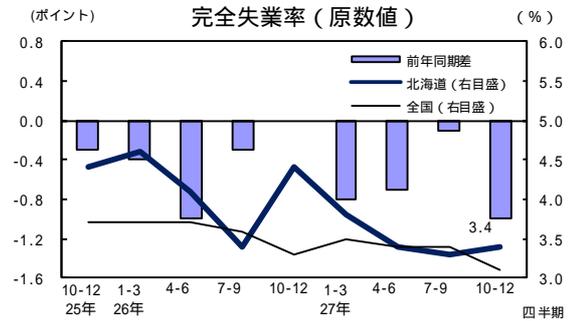
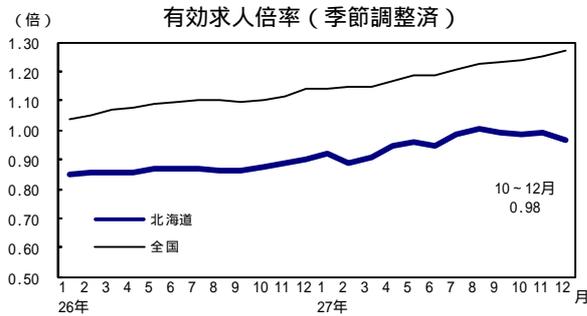


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

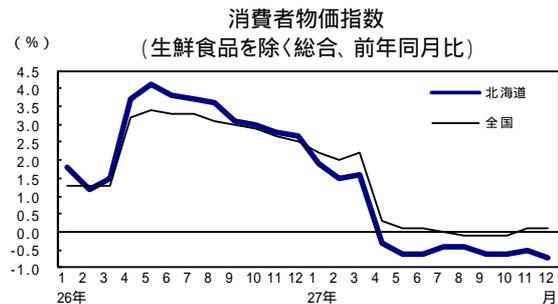
「求人倍率は上昇しているが、就職件数は伸びていないため、全体としては変わらない(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	82	61	77	59	19
(前年比)	10.9	20.8	5.5	0.0	17.4
負債総額	245	136	113	156	35
(前年比)	55.7	22.9	25.1	91.9	39.4



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・中国、東南アジア、オーストラリアを始めとした海外からの旅行者が増えている。特に、中華圏からの旅行者は価格が高くても、質の良い商材を求める傾向があるため、当店の客単価も上昇しており、売上増加につながっている(一般レストラン)

<先行き>

・石油製品価格が下がっているため、商材やサービスにお金が回ることが期待できる(商店街)

